

## 11期 ミュージアムへ行こう2

### 第3回テーマ 平城宮跡と平城宮跡資料館見学

#### 事前学習：

- 《1》 講座日時：2023(R05)年 06月 08日(木) 10時-12時
- 《2》 講座場所：豊中市くらし館 3階 “写真 a”
- 《3》 講師：奈良文化財研究所 展示企画室長 岩戸晶子先生
- 《4》 概要：ミュージアム2では史跡の見学や美術館鑑賞の前に、専門家による講座が開催されている。(受講生に大好評です)  
今回は、来週の平城宮史跡と資料館などへの見学に先立ち、岩戸先生から説明を受けた。非常に流暢にお話しされ、内容も大変興味深い講座であった。  
来週(6月15日)の見学会がとても楽しみです。

#### 《5》 講座の内容

- ① 現在、平城宮跡には立派な大極殿や朱雀門が復元されているので、当然、平城宮跡は古より場所が特定され建物配列なども判明していたと思われるが、実際に平城宮跡がわかり始めたのはほんの100年ほど前のことである。
- ② またここに辿り着くまでには多くの偶然(先生は奇跡と呼ばれていたが)が重なっている。
  - ・平城京とよく比較される平安京は平安時代から江戸時代まで長きにわたり使用されたために建物などは何度も何度も建て替えられていて、文献は多数現存するものの往時の姿を復元することは困難である。一方、平城宮跡は一度しか使用されておらず、その後長きにわたり水田として使用されたため往時の姿を忠実に復元出来た。

・奈良時代は大きく3期に分けることが出来る。

一期：奈良時代前半の平城宮

二期：聖武天皇が恭仁京などの都を転々とされた時期

三期：奈良時代後半の平城宮

三期の大極殿は一期の大極殿の跡地でなく東側に造営された。☞写真b☞

・平城宮の場所などの特定は、三期の大極殿周辺などのきわめて狭い範囲からはじまり現在までの範囲に拡大された。(初期に植木職人の棚田嘉十郎など多数の献身的な活動)

・現在、大極殿や朱雀門が復元されているのは一期のもので、三期の大極殿跡は基壇の高まりが残っているため、建物などは復元せずにそのまま保存されている。

一期の大極殿は、恭仁京にそのまま移設され、恭仁京が廃止されたあとは山城国分寺となった。寺として使用された大極殿は朽ちたが礎石は残った。

一方、一期の大極殿の跡地は、基壇も完全に平らにされ別の建物(西宮)が建てられ、朽ちたが、一期の大極殿の基壇の範囲は特定出来た。この範囲が山城国分寺の礎石の範囲と完全に一致したため、一期の大極殿を往時の姿に復元できた。

### ③ 特別史跡の中を走る近鉄電車の問題

・特別史跡と認定された後に近鉄が線路を施設したのではなく、当時判明していた三期の史跡範囲をよけて施設されている(ちゃんと史跡に気を使っている)。

・前知事は線路を現在の史跡の南側に迂回することを検討していたが(費用2000億円超)、新知事になり見直しされるようである。

・なお、平城宮跡からは大量の木簡が出土する。これは平城宮跡の地下が浅いところまで水に満たされているからである。

木簡についての著書をお持ちの大阪大学の市先生に以前伺った話し。

近鉄の線路を平城宮跡から無くす案の一つとして「トンネル化」というのがあった。

トンネルを掘られると平城宮跡の地面から水分がなくなってしまう、水分豊富な地下に埋蔵されていることで木簡たりえている木簡が全部死んでしまう。そのため、

「トンネル化」には大反対であるとのこと。(このこともあって線路の南への迂回策が検討されたのであろう)



写真 a 事前学習風景

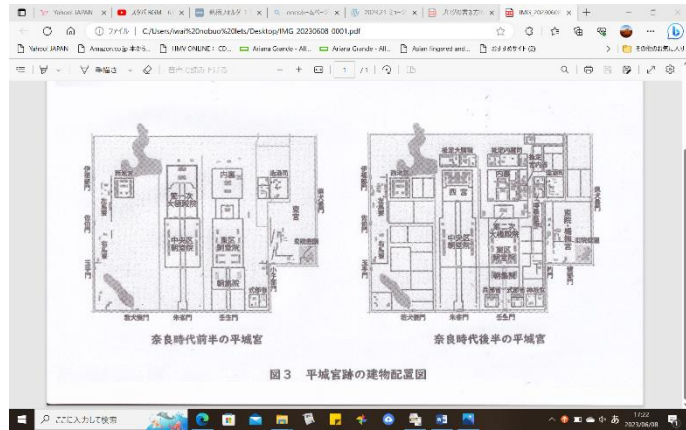


写真 b 平城宮跡の建物配置

## 実際の見学：

《6》 見学日時：2023(R05)年 06 月 15 日(木) 10 時-12 時

《7》 見学場所：平城宮跡資料館 (受講生 30 名参加)

《8》 集合場所・時間：近鉄大和西大寺駅・中央改札、10 時 “写真 c, d”

《9》 概要 :近鉄奈良線が人身事故のため瓢箪山～生駒で運休。遅刻者続出のため、10 時 30 分までに集合出来た第一陣が資料館に向けて出発し、間に合わなかった人は第二陣として出発。

(迂回ルートで大和西大寺駅にたどり着いたが、いくつかの迂回ルートを「備考」に後述する)

資料館の見学のあとは流れ解散。

我が 4 班は資料館見学のあと、ばらけてしまい、男性 3 名が朱雀門ちかくで軽食をとり、遣唐使船・朱雀門・大極殿南門・大極殿を見学し、西大寺駅から帰途についた。

第二次大極殿のエリアや遺構展示室には次の機会に訪問しようと思います。

《10》 見学の内容：

### ① 平城宮跡資料館

奈良文化財研究所の 70 年の発掘調査結果が展示されている。

当時の役人は現在と同じ椅子・机を使用して執務をしていた。その後なぜ椅子・机の文化が途絶えたのかが不思議。 “写真 e”

現代風のベッドもあり興味深かった(天皇のみ使用された?)。 “写真 f”

食事の品数・種類も我が家の食卓よりはるかに豊であった。 “写真 g”

② 遣唐使船

記念撮影 “写真 h”

一隻に 150 名ほどが乗船したため、過積載で難破？との説もあるようです。

③ 朱雀門 “写真 i”

1998 年(平成 10 年)に復元された。二重の屋根で他の門より立派につくられている。

④ 大極殿南門（東楼：復元中） “写真 j, k”

南門:8 年ほど前に訪ねた時はなかった新しく復元された建物。令和 4 年復元。

東楼：復元工事中。

⑤ 大極殿

平城遷都 1300 年にあたる 2010 年(平成 22 年)に復元し、なかには高御座の複製品が配置されています。“写真 l”

●●● 最後に、事前学習や見学・鑑賞などを企画立案し、講師の先生方や資料館・美術館などとの調整に尽力いただいている 2 名の女性 CA に感謝いたします。

(ブログ担当：4 班 i)

「備考」

「迂回ルート①」 御堂筋線(梅田～難波)のあと、近鉄・難波駅改札で人身事故を知り、御堂筋線(難波～本町)→中央線(本町～生駒)→近鉄(生駒～大和西大寺)。

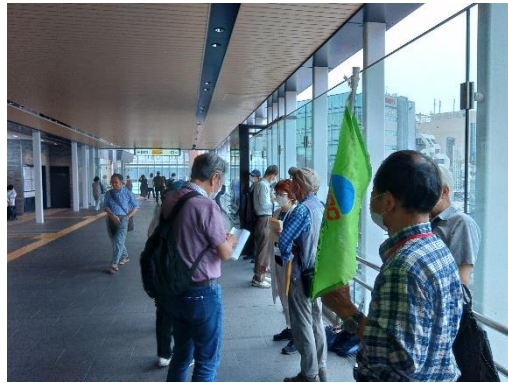
「迂回ルート②」 御堂筋線(梅田～難波)のあと、近鉄・難波駅改札で人身事故を知り、近鉄(難波～上本町)→近鉄・大阪線(上本町～大和八木)→近鉄・橿原線(大和八木～大和西大寺)。

「迂回ルート③」 JR 環状線(大阪～鶴橋)の途中、京橋手前で人身事故を知り京橋で下車、JR 環状線(大阪～京橋)→鶴見緑地線(京橋～森ノ宮) →中央線(森ノ宮～生駒)→近鉄(生駒～大和西大寺)

結果論ですが、京橋で下車せず森ノ宮まで乗車するルートが良かったか。すなわち JR 環状線(大阪～森ノ宮)→ 中央線(森ノ宮～生駒)→近鉄(生駒～大和西大寺)。



写真c 大和西大寺駅



写真d 集合の風景



写真e 机と椅子



写真f ベッド



写真g 食卓の風景





写真 h 遣唐使船で記念撮影



写真 i 朱雀門



写真 j 左から大極殿、南門、東楼



写真 k 南門



写真 l 高御座